

みちくさ 迎春

明るく楽しい一年に！

駒場苑

総合ケアセンター 駒場苑
平成30年1月発行 [第24号]

中村施設長の 年中夢求



「収穫の年」～笑顔に囲まれて～
新年あけましておめでとうございます。

今年の干支は戌年ですので、去年は言わずと知れた酉年。果実が成熟した状態を表し「実る」という意味がありました。では戌年は？「一」「戈」で作物を刈り取りひとまとめにするという収穫を表しています。

去年は総合ケアセンター駒場苑として「改革の年」と位置付けて多様な視点から見直しに取り組んできました。

想いを大切にされた採用活動を行った結果、事業所によってばらつきはあるものの採用、定着が進んだ年でした。その結果会議や委員会が当たり前のように開催できることで、食事、入浴、排泄のレベルが上っただけでなく業務全般の標準化や効率化も進みました。そして財務体質も昨年度までの厳しい状況からなんとか事業として成り立つレベルまで立ち直る気配を見せています。

私達が行っている事業には終わりはありません。しかしどこかで区切りをつけていかないと成り立たないもの事実です。そう考えるとご利用者の笑顔が目的でありゴールなのですが、私達職員はその笑顔が見たくて頑張っているんです。

笑顔という結果が実りだとすれば、それを楽しみに頑張ることが収穫といえます。そしてもっと笑顔になってもらいたいから更に頑張る。この周期を『サービスの向上』と呼ぶのです。

人材の確保、育成、定着や業務の効率化、財務体質の見直し等は全てこの結果に繋がる手法に過ぎないのです。

終わりなき仕事かもしれませんが、毎日の生活が笑顔に囲まれるとしたら、職員としてはこんなに嬉しいことはありません。ご利用者の笑顔、職員の笑顔、そしてこの先はご家族と地域の笑顔に囲まれた駒場苑を目指していきます。



飯岡栄養士の お食事レポート



数年ぶりに『ちよだ鮭』さんが駒場苑に来てくれました。お寿司はご利用者から要望の多いメニューなのですが、衛生管理やコストの面で高齢者施設での提供は難しいのが現実です。そんな中、願ってもいないような嬉しい話に職員も大喜びです。早速、担当の方と細かい打ち合わせに入りました。しかし困ったことに「高齢者施設に特化した形状は出来ない」との話。一般のにぎりしかできないので、ソフト食等それ以外の特食は厨房で作って欲しいとの事。当苑は給食を委託しており、委託会社では生ものの扱いは出来ない方針であるとわかっていたので、この一言は実は結構衝撃でした。

ここで蘇ってきたのが以前働いていた特養での出来事です。そこでも全く同じような経験をしていたのです。その時ソフト食の方には、冷凍の魚や貝を加熱して蒲鉾のようなネタを作り、ご飯はバラけないようにゼラチンで炊いて握りにしてもらい、刺し身状のネタをのせて「お寿司ですよ」とお出したのです。数種のネタを作り、貝も玉子も本物そっくり。我ながら満足の出来栄でした。しかし、ご家族から「母はこんなのではなくて本当の刺し身が食べたかったと思います」との声が…。「なんとかして刺身を食べさせてあげればよかった」と言うその時の申し訳ない気持ちが蘇り、今回こそは！という思いを強くしました。

そんな私の強引なお願いに委託会社も折れてくださり、事前に衛生委員による生もの取り扱いの指導、当日はスタッフの増員と、万全な体制を整えてくれました。厨房では調理師さんが食材それぞれの味をお楽しみいただけるよう、一つひとつの食材毎に加工して、心を込めて食べやすく美しい寿司を作ってくださいました。その完成を見た時には思わず涙が滲みしました。ちよだ鮭さんのご厚意に感謝。また陰ながらいつも皆さんの大切な食を支えて下さっている給食委託会社の皆さんに改めて感謝のよい一日となりました。



ソフト食用のお寿司

ちよだ鮭 折り鶴キャラバン来苑

数年ぶりにちよだ鮭さんが駒場苑に来苑しご利用者・ご家族・職員に美味しいお寿司をご馳走してくれました。大勢の職人さんが目の前で握ってくれてご利用者も大喜び。お腹いっぱい頂きました。



一人前召し上がった後は好きなネタをおかわり。みなさん大満足でした。



食後は「奥山まさしバンド」の演奏。歌って踊っておおいに盛り上がりました！

「折り鶴キャラバン」とはちよだ鮭さんが行うボランティア活動です。この度は駒場苑に来てくださって感謝の気持ちでいっぱいです！！

